

IV-4

教材・教具の工夫が大切

(1) 教材・教具とは

「教材」とは、教育内容を児童生徒に習得させるために提示・活用する素材です。「教具」とは、教育の方法又は手段として使われる具体的な道具や物です。

実際には教材と教具とは区別されにくいことが多く、「教材・教具」と併記して用いられています。



(2) 基本的な考え方

教材・教具は、教育効果を高め、学習内容の理解を促す上でとても重要です。

児童生徒が授業のねらいを達成し、学習内容を確実に身に付けることができるようにするためには、障がいの状態や特性に応じ、最も有効な教材・教具を選択したり、適切に活用したりする必要があります。そのため、ICT機器を含む教材・教具について教材研究を深め、児童生徒の実態に応じた教材の工夫を図りましょう。



一口に、「視覚的な教材」と言っても、イラストが分かりやすい児童生徒もいれば、写真が分かりやすい児童生徒もいます。教材・教具を作成する際には、児童生徒一人一人の発達の段階や授業の目標に応じて工夫する必要があります。

(3) 教材・教具のポイント

- ① 指導のねらいに沿っているか。
- ② 児童生徒の発達や障がいの状態に対応したものか。
- ③ 児童生徒の興味・関心を高め、学習意欲を高めるものか。
- ④ 操作が容易で、単純で具体的なものか。
- ⑤ 繰り返して使え、利用度の高いものか。
- ⑥ 安全性が高いものか。
- ⑦ 保管・整理がしやすいものか。



以上の7つのポイントを基に、児童生徒が何をできるようになるために教材・教具を用いているのか評価して、教材・教具の工夫・改善を進めていくことが大切です。

(4) 教材・教具データベースの紹介

障がい特性やねらいに応じた教材・教具の例が紹介されています。

- ① 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター
「[教材・教具データベース](#)」
- ② 発達障がい児のためのサポートツール・データベース
「[教材・教具DB](#)」



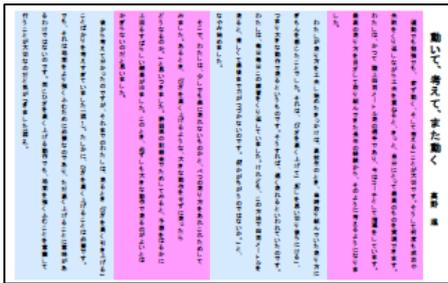
①



②

(5) 事例紹介

① 教科等

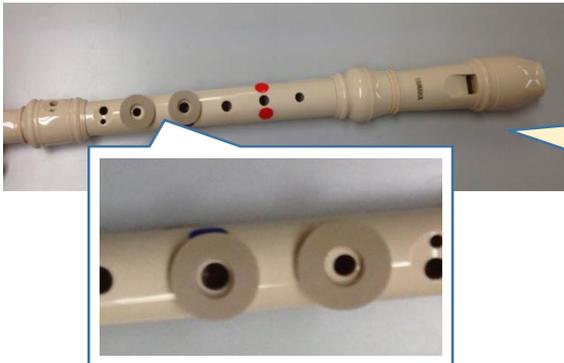


段落ごとに色分けしたプリントです。文全体の構成を捉え、段落を意識したり、重要な語句に着目しやすくなったりします。

文章を書くことが苦手な人のために、質問に答えれば簡単な文章をつくれるアプリです。文章を書くきっかけをつくり、文章の構造を理解することにつながります。

簡単に読書感想文	
本のタイトル	①
著者	①
物語の現状設定	①
この本を読むまではどう思ったか	①
実際に読んでみて考えが変わったところ	①
特に心動かされたところ	①
誰が	① [心が動かされたわけ]

「簡単に読書感想文～穴埋めでパツとできる～」 kenichi kato

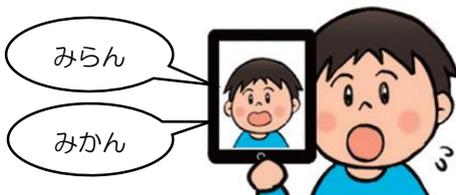


リコーダーの穴の位置が分かりやすく、弱い力でも穴を塞ぐことができるため、演奏しやすくなります。

繰り返し学習が必要な内容などについては学習カードを作成します。ラミネート加工を施すことで、繰り返し使用することができます。



② 自立活動



タブレット端末のビデオ機能を用いて、自分の発音について気付くようにしたり、音声的なフィードバックを得ながら発音の練習をしたりすることができますようにします。

自分の伝えたいことを書いて伝えるためのカードです。自分の気持ちを相手に伝えることができた体験をすることで、次のコミュニケーションにつながります。

